

## 平成23年度 森プロ事業実績：郡上森プロ

(平成24年3月末現在)

	H19～22年度		H23年度				5カ年	
	計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	177	200	46	10	22%		223	
作業道(m)	12,667	10,606	0	1,201	—	作業路含む	12,667	
間伐等	面積(ha)	149	135	69	12	17%	利用+切捨	218
	材積(m3)	15,030	9,913	7,488	2,009	27%	支障木含む	22,518
備考	団地外実績(利用間伐 78.51ha 搬出材積 3,444m <sup>3</sup> 作業道開設 2,805m)※材積支障木込み							

H23年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

4,700 円/m<sup>3</sup>

## 施業集約化の状況

- ・ 森プロ計画に基づき施業の集約化を実施した。
- ・ 施業集約化チームに加え間伐材搬出プロジェクトチームを設置し、切捨て間伐から利用間伐へと移行が進められた。

## 施業プランの活用状況

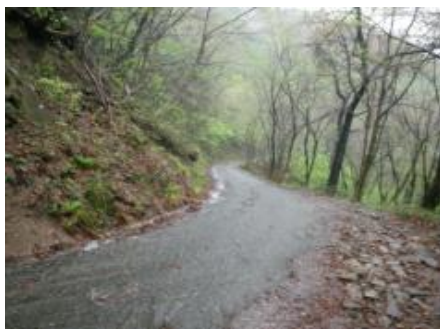
- ・ 担当者が森林所有者と面談し、施業プラン等を提示しつつ事業区域全体の施業内容や目標を説明し承諾を得ている。ただし、森林所有者には高齢所有者や森林に対する知識や関心が低い方が多く、簡易な説明が求められ、詳細な説明を求められるケースは少ない。

## 施業プランナーの養成状況

- ・ 施業プランナー：6名
- ・ H19:1名、H20:2名、H21:1名、H22:1名、H23:1名

## 作業道の状況

- ・ 10tトラックの走行を想定し幅員3.6mを標準とする幹線路網を優先して開設。
- ・ 設計、先行伐採、管理は、森林組合、施工は、外注により実施した。
- ・ 作業道の開設に当たっては、横断排水溝の適切な配置など雨水処理、無駄のない先行伐採に配慮した道作りを行った。
- ・ 既設路網の現状把握し、メンテナンスを行った。



降雨時の作業路状況把握



既設作業路崩土調査



搬出中路面調査

### 作業システムの状況

- ・ 長伐期施業における中齢級の間伐を定性及び列状により実践
  - ・ 平成23年度 素材生産性 約14m<sup>3</sup>/人・日(伐採～積込まで)
  - ・ メインシステム: 伐倒(チェンソー)→集材(スイングヤーダー)→造材(プロセッサー)→積込み(グラップル)→運材(10tトラック)
- ※作業道の状況によりフォワーダーを活用  
※スイングヤーダーにより80m程度まで集材  
※必要最小限の機械により作業を実施(基本は、グラップルヘッド付きスイングヤーダー、プロセッサー)



### その他

- ・ 県森連ネットワークセンターと連携し、中間土場を活用した工場等への直送(システム販売)を促進し、価格安定、安定供給、流通コスト低減を図った。
- ・ 注文材等の有利販売も取り組んだ。

注文材の積込



### 森プロの成果

- ・ 新たな森林整備事業制度への対応を念頭に、組合内で切り捨て間伐から利用間伐への意識醸成が進んでいる。このため、高性能林業機械を配備していない林産班以外の班(保育専門班)でも集材機等により搬出間伐が積極的に行われた。
- ・ 必要最小限の林業機械を効率的に活用する生産システムが確立され、所有者への利益還元が図られた。
- ・ 基幹作業路からの支線については、高性能林業機械が入れる程度の幅員3m以内の作業路を開設し開設事業費のコストダウン及び壊れにくい作業路とした。

### 今後の課題

- ・ 災害に強い路網開設技術の習得(適切な雨水処理、施工法等)
- ・ オペレーター技術の向上(残存木損傷軽減、メンテナンス経費軽減等)
- ・ 皆伐を含む、補助事業に頼らない組合単独事業の展開